

2025 年度 蘇遙会情報誌

熊本大学工学部 土木建築学科土木教室 蘇遙会

2025 年 9 月 1 日発行

熊本城 特別見学通路からの眺め

写真提供:熊本城総合事務所

〔発行〕

蘇遙会事務局

〒860-8555

熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 - 1

熊本大学工学部土木建築学科

土木教室内（月・火 10：00～16：00）

Tel： 096(342)3544

Fax： 096(342)3507

E-mail soyoukai@kumamoto-u.ac.jp

HP <https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/>

会費および寄付金の払い込み方法等は

HP をご覧ください→



ぼうさいこくたい 2024 in 熊本 が開催されました

地域防災研究室 教授 竹内 裕希子

防災に関する活動を実践する行政、学術団体、事業者、NPO、町内会などの幅広い多様な団体・機関が一堂に集う「防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2024」が10月19-20日の2日間熊本市中央区の熊本城ホール・花畑広場・国際交流会館を会場に開催されました。

ぼうさいこくたいは内閣府が主催する日本最大級の防災イベントです。2016年に東京大学を会場に開催されたのを初めとし、9回目を迎える今回は九州初開催でした。3月から11月までに5回開催された現地情報共有・連携会議では、オンライン参加も含め延べ715名の方にご参加いただき、熊本県内外からの非常に高い関心が伺えました。当日は過去最大の404団体から出展があり、「復興への希望を熊本から全国へ～伝えるばい熊本！がんばるばい日本！～」をテーマに、平成28年熊本地震から8年、令和2年7月豪雨から4年を経過した熊本の復興の様子を知って頂く機会となりました。参加者も過去最大の約17,000人でした。



このぼうさいこくたいで熊本大学からはブース展示、ポスター展示、セッションなど20の出展がありました。その中の1つとして熊本大学工学部土木建築学科地域防災研究室(竹内研)は、全国共済農業協同組合連合会(JA共済)、白山工業株式会社、NPO法人プラス・アーツ、一席との共同で椅子型振動台(地震ザブトン)を用いた「ザブトン教授の防災教室」を出展しました。平成28年熊本地震の教訓に基づいたすごろく式クイズを作成し、振動体験と家具固定ワークショップを組み合わせた展示は2日間で202名の方々にご体験いただきました。

開催4カ月前の6月からワークショップや打ち合わせを重ね、防災教育効果や空間利用、動線を検討しながら展示内容を作成していきました。企業と学生、教員が対等な立場で議論を重ね、同じ目的でものづくりを行うだけでなく、来訪者に体験してもらい評価を得るという大変貴重な経験となりました。

また、このぼうさいこくたいでは、2007年に設立した学生災害復旧支援団体「熊助組」もブース展示を行い、多くの他団体と交流をさせていただきました。

熊本ではこれまでの被災経験を基に様々な立場の人たちが様々な視点

で防災活動に取り組んできました。今回のぼうさいこくたいは、全国の防災の取り組み事例を知る機会になり、熊本の人々にとってこれまでの取り組みを見直す機会・つながる機会になったと思います。



こ 換 拶

蘇遙会会長 山尾 敏孝

蘇遙会会員の皆様お変わりありませんか。蘇遙会の情報誌を今年も卒業生、学科長及び学生の協力で作成することができました。是非目を通していただき、ご感想やご意見等をお寄せしていただければと思います。工学部で学生達が自主的に活動をしているのは唯一蘇遙会だけです。蘇遙会活動は、土木系の卒業生と現役の学生及び教職員をつなぐ場であり、交わるきっかけを作る場です。交流活動を通して大いに親睦を図っていただき、蘇遙会を活性化して欲しいと思います。

今回の情報誌には、昨年熊本市で開催された「ぼうさいこくたい」の実施報告が掲載されています。熊本地震から早いもので9年が経ちました。地震、台風、火災、火山活動など一年中、日本のどこかで災害が発生しており、その復旧・復興に多くの時間とお金が費やされています。私も熊本城跡の復旧に携わっていますが、まだ道半ばで、復旧完了予定は2052年です。機会があれば特別見学通路が設置されている間に、熊本城跡の復旧状況を見ていただければと思います。

災害に対しては、備えることが一番大事だとわかっていても、全ての災害にできる訳でもありません。それぞれの災害に特徴があり、発生状況も違います。しかし、災害に対する備えをする意識を持つことは重要です。防災・減災は身近なところからできると思います。学だけでなく、訓練などで実践することを通して身に付けて欲しいと思います。

今年の蘇遙会運営委員会の構成は、運営委員長は昨年と同じく佐藤晃教授(学科代表)、土木教室の2年生担任は古城秀治准教授です。また、学生部は、学部3年の平緒優貴部長、杉本泰晟副部長ら6名です。運営委員会は6月13日に土木系会議室にて、東京支部の坂西さん、大阪支部の野中さん、福岡支部の森さん、大分支部の前野さん(石和さんの代理)、宮崎支部の河野さんに参加していただき、対面で開催しました。坂西さんから同窓の交流策として、各支部、教室、学生らを交えたオンラインミーティングの開催をして連携を深める提案がありました。非常に意義のある提案と思うので今後、具体的な検討を期待したい。終了後、生協にて懇親会を実施しました。昨年の仁戸田尚部長、須藤翼副部長らの学生部役員の皆様ご苦勞様でした。

最期に卒業生の皆様にお知らせです。工学部130周年記念事業

が実施されます。記念式典等は2年後の2027年10月末に開催予定で、募金も開始されます。ご支援とご協力を是非お願いしたいと思います。

会員の皆様には、今年も蘇遙会並びに工業会のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

未来を築く優秀な人材の輩出を目指して

蘇遙会運営委員長 佐藤 晃

卒業生の皆様には、日頃から本学・本教室へのご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。令和6年度より土木建築学科・土木系学科長および蘇遙会運営委員長を仰せつかっております佐藤でございます。蘇遙会および土木教室の活動にご理解とご協力を賜り深く感謝いたしております。

まずは教職員の異動についてご紹介いたします。まず、これまで地域公共政策研究室(柿本研究室)の助教として活躍されていた安藤宏恵先生が、令和7年4月より名古屋大学にご異動になりました。新天地でのますますのご活躍を祈念しております。また、これまでも当教室の水質環境学研究室でご活躍いただいておりました伊藤紘晃先生が、令和7年4月より准教授に昇任され、新たに水圏物質動態研究室を発足されました。今後、当教室でのますますのご活躍を祈念しております。

さて、昨今の新聞紙上やニュースではいわゆる令和の米騒動や物価高に関する話題を目にしない日がないくらいに世の中を賑わせておりますが、加えて各業界で人手不足が深刻の度をますます増している状況です。本土木教室を卒業され、建設業界の第一線で活躍されているOB・OGの方々からは、特にコロナ禍後の1～2年からは優秀な人材を多数輩出してほしいとの話を多く頂くようになりました。蘇遙会OB・OGの皆様にはインターンシップ研修のお世話や、現役学生に直接講義や講演を頂く機会をいただくなど、学生一人一人が将来の自分の姿を描く貴重な材料を提供して頂いていると感じております。また、蘇遙会運営委員会では学生委員に対してOB・OGの皆様から暖かいご声援をいただき、学生たちも皆様や社会の要望に応えられるよう、勉強や研究に取り組んでくれるものと期待しております。

一方で昨年来大きく取り上げられている通り、世界最大の半導体受

託製造企業である TSMC をはじめ、国内外の半導体関連企業が多数熊本に進出し、その人材供給の要として本学工学部が大いに期待されております。土木教室としては、引き続き半導体製造では必須となる地下水の保全や、企業を中心としたまちづくりあるいは交通政策などの幅広い研究分野で貢献できるように精進して参ります。

本年（2025 年）9 月 8 日(月)～12 日(金)には土木学会全国大会が熊本大学および熊本城ホールを会場として開催予定です。OB・OG の多くの皆様もこの大会に参加されることと存じます。是非、この機会に熊本大学にお立ち寄りいただき、併せて教員や学生さんとの交流を深めていただければ幸いです。末筆ながら、蘇遙会の皆様の益々のご活躍を祈念しております。

寄 稿

昭和 43 年卒 同期会報告

土木工学科 昭和 44 年卒 佐熊 剛 氏



令和 6 年 1 月 7 日に、温泉旅館玉名温泉さつき別荘にて、4 年ぶりの再会を喜び、お互いの近況談話などに花を咲かせました。卒業した頃の世相は、高度成長時代のまっただなかで、土曜日が半ドンになったのが夢みたくでした。現在は三連休がざらですが…。モーレツ社員の一員として、良いにつけ、悪いにつけ、日本の成長を支えたことにもなるのでしょうか？実質経済成長率が年平均 10 パーセント越えの時代でもありました。その結果、建設従事者にとって、騒音、振動…等典型 7

公害への検討、対策が求められるようになりました。

きがつけば、同期会の面々は、卒業後、早や 56 年余りとなり、年齢的には傘寿を迎える齢となります。さすがに、参加人数も、夫婦同伴者も含めて 12 人です。このような状況では、クラス全体としての同期会の継続は難しいと判断し、一旦、現在の同期会をリセットすることにしました。今後は、モバイル連絡手段を利用することで、簡単に有志が集うことができます。このような有志の茶飲み会的なものを期待します。

多くの、恩師の方たちが逝去されているなか、92 歳の平井一男名誉教授が、あの懐かしい金峰山を舞台に、速歩と山登りで、健康長寿を達成されている寄稿文を読ませていただき感銘しました。

まだまだ多くの思い出を書きたいのですが、こまでも長々した長文になっていますので筆をおきます。

平井先生の寄稿文(8 頁程度)は、熊本大学工業会事務局に問い合わせれば、手に入るようです(工業会の HP にも掲載されています)。

昭和 43 年卒同期会の繰越金(¥55,781)を上記同期会に出席された皆様のご意向のもと、蘇遙会へご寄付いただきました。頂戴した寄付金は、在学生の支援及び蘇遙会運営に、有意義に使用させていただきます。この場をお借りして、お礼申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈りいたします。 蘇遙会会長 山尾 敏孝

水コンサルタントに携わって

土木工学科 昭和 49 年卒 佐久間 宏 氏

学生時代は専門課程では、応用力学教室に所属し水田先生に卒業研究等でお世話になりました。また入学当初より体育会合気道部に所属し、黒髪北地区の一角にあった古びた木造の道場で合気道の稽古に明け暮れていました。そのため体に擦り傷や青あざがたえませんでした。春はその道場での合宿、夏は各地へ出かけての合宿などが思い出されます。

卒業後は株式会社日水コンに入社し、下水道施設の調査・計画・設計を担当致しました。私が入社した昭和 49 年ごろは、下水道の普及・拡大が目標の建設の時代でした。今では考えられないような長時間労働が当たり前の時代でした。平成の時代になると、水環境規制の強化等により、水処理の高度化、水処理過程から発生する汚泥の資源

化・再利用等に業務の内容も変化していきました。さらに時代は進んで近年は、施設の老朽化に伴う改修や再構築、財政のひっ迫、少子化に伴う民間活力の導入支援等や災害対策の業務等が増えています。埼玉県の下水道管の老朽化による痛ましい陥没事故がありましたが、これらの下水道管の事故防止対策、気候変動によるゲリラ豪雨による都市水害対策等も水コンサルタントの業務になります。

60歳で定年を迎え、その後は71歳まで嘱託社員として継続勤務致しました。定年後は日本技術士会、建設コンサルタンツ協会、全国上下水道コンサルタント協会の各委員としての活動や社内での後進の育成にあたりました。49年間にわたり水コンサルタントに携わってこれたのも、



2025年6月
ポルトガル
ポルトの
街角にて

先輩や同僚、家族の支援があったためであり、感謝致しております。

私生活では40代後半から合気道の稽古を再開し、現在は合気会本部道場の委嘱指導員としてカルチャーセンター等での稽古指導に携わっております。今後は微力ながら合気道を通じて社会貢献をしていければと思っております。最後になりますが、蘇遙会と熊大の益々のご発展をお祈り致します。

建設コンサルタントはやりがいのある職業

土木工学科 昭和59年卒 阿比留 健司 氏

私は、昭和59年(1984年)3月に土木工学科を卒業し、建設コンサルタントの第一復建株式会社に入社しました。現在は、再雇用で継続勤務しており、今年で41年目になります。

学生時代は航空部に在籍し、グライダーに乗り久住高原の大空を滑空していました。居心地がよかったのか5年をかけて熊大を卒業することになりました。

私が建設コンサルタントを志望した理由は、飛行機が離発着する空港などの建設工事に興味があり、小さいころから工作や絵が好きで、現場で構造物を作るより設計図を描く方が自分にあっていると思ったからです。

仕事は主に河川設計を行っており、毎年夏になると、私が設計した福岡県朝倉郡東峰村の「棚田親水公園の河川プール（こいのぼりプール）」のニュースが、NHKをはじめ各テレビ局で流れます。子供たちが楽しそうに遊んでいる姿を見る度、彼らの記憶に残る土木構造物の設計に携われたことへのやりがいを感じています。

印象に残る仕事としては、平成23年3月11日午後2時46分、東北地方において宮城県沖を震源とするM9.0の死者・行方不明者数が合計1万9千名余りとなる「東日本大震災」が発生した際、復建6社の災害協定に基づき、震災発生翌月より、災害応援として仙台市の復建技術コンサルタントへ派遣され復旧設計支援業務に携わったことです。厳しい査定スケジュールでの作業でしたが、M9.0という未曾有の震災被害という特殊事情はあったにしろ、過酷な状況下、黙々と仕事を行う復建技術コンサルタントの社員の方と4ヶ月にわたり一緒に仕事を行ったことは、私にとって忘れることができない思い出となりました。

仕事を行う上で心掛けてきたことは、挫けそうな時は、江戸中期の米沢藩藩主、上杉鷹山の歌『なせば成る、なさねば成らぬ何事も、成らぬは人のなさぬなりけり』を思い出し、『出来るんだ』と自分に言い聞かせて仕事を行うようにしてきました。

私たち建設コンサルタントを含む土木技術者は、自然を相手に国土基盤を整備する仕事を行っています。昨今の異常気象により激甚化する自然災害に対応するのは我々土木技術者です。国土基盤が整備されて、はじめて私たちの生活は豊かになります。華やかな職業とは言えませんが、建設コンサルタントはやりがいのある職業です。

学生の皆さん、建設コンサルタントへの就職を考えてみませんか？



昭和54年入学土木集合写真

少しは役に立ったかな？

土木工学科 昭和 59 年卒 前田 文男 氏

昭和 59 年(1984 年)に卒業し、コンクリートの橋梁建設を主業とする建設会社に就職しました。

学生時代は、山岳部に所属し夏冬は北アルプスに出かけ、週末は九州内の山に行ったり、阿蘇で岩登りをしたりしていました。学生生活の多くを部活が占めていましたが、学業の方は 3 年終了時に卒論を残すだけの単位取得ができていました。卒論の研究室は、当初コンクリート研究室を希望していたのですが、研究が始まる前に担当の安中教授が亡くなられ、コンクリート研究室は解体され、各メンバーは他の研究室に移りました。私は構造力学研究室に移り、平井先生のもとで卒論に取り組みました。

就職後は、橋梁の工事現場や設計部署などを担当し、縁があり 1996 年 4 月から社会人留学生として熊本大学の博士課程に進み、崎元先生の指導を受けました。

修了後は、工務や施工計画などを担当しました。その後、東京本社に移動になり工事部門の管理など行いながら、海外工事案件の入札のために主に東南アジア方面に出かけたりもしました。

2005 年から 1 年ほど、アメリカの Hoover Dam の直下にアーチ橋を架ける仕事に従事しました。この工事では、高さ 100m のタワーを有するケーブルクレーンが崩壊するという事故があり、私はそれを僅か 10m も離れていない狭い擁壁の上から動くこともできず崩れゆく様をただ茫然と見ていました。工事は当然中止となり、帰国して九州新幹線の工事に従事しました。

ところが諸事情があり、急遽応援としてアフリカのエチオピアのナイル川の上に橋を架ける工事に呼ばれました。海外の工事は、電話 1 本で必要な資材



ナイル川の上で現地スタッフと

が届く日本国内の工事と異なり、資機材の管理を疎かにすると忽ち工事が止まります。現有の機材や現地で入手可能なものを探して組み合わせて計画を練りました。現地の働く人も未経験者ばかりです。当然お互いの言葉は分かりませんのでツールとして英語を使ってやっと意思疎通を図るという状況でした。そのような状況でしたが、日本国内では考えられないような速さで橋梁上部工の工事を終え 2008 年に帰国しました。

帰国後は、大阪で 10 年間工務の仕事をして、またしても東京本社で工事管理部署に就きました。

61 歳で会社を退職し、現在は子会社の橋梁架設用の機材の提供会社にいます。会社人生の中で、工事作業所勤務を含めて 20 年以上単身赴任生活です。家族には負担をかけたこともありましたが、仕事自体はかなり好き放題させてもらった思いがあります。直接工事に従事した橋もあれば、架橋計画の当初から携わり思うような絵を描いたこともあります。自分が関与した仕事が少しは世の中のためになっているのではないかと秘かに思っています。

現在は、後進の指導が主な仕事ですが、煙たがれるまでは続けようと思います。

蘇遙会と私

土木工学科 昭和 63 年卒 執行 聖二 氏

私は、昭和 59 年 4 月に土木工学科に入学しました。その 2 年前に、今の『蘇遙会』の前身？にあたる、学生のみで組織され、学生と先生の親睦を図る目的で『蘇遙会』が誕生しました。私は、そのメンバーの一人で、1 年生の時は親睦委員を担当しました。今の『蘇遙会』のマークはこの年にできました。

最初の会合は、旧「知命堂」で開催され、4 年生の会長から会の趣旨、マークの意味、各種委員の役割などの話がありました。当時は、北園先生が、世話役として関わって下さいました。直近の 4 月の新歓コンパで、大変厳しい（笑）歓迎を受け、恐る恐る会合に参加しましたが、先輩方はとても優しく、安どしたことを今でも覚えています。七夕コンパ、駅伝大会などなど、沢山のイベントを企画し、多くの方々と親睦を深めることができ、嬉しく思いました。

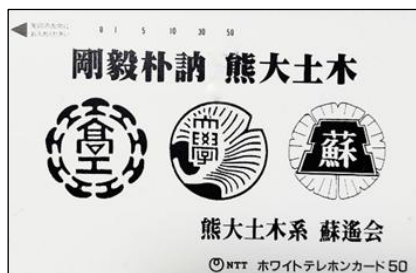
私が 4 年生の時、第 6 代の「蘇遙会」会長をさせていただきました。当

時、工学部が 90 周年記念行事を行っていたので、「蘇遙会」として何かできないかと考え、「蘇遙会テレホンカード」を 100 枚作製しました。私が勝手にデザインしました。土木系教室の前にいた私に、テレカを見た当時の建築系教室の牧野教授（熊本建築卒、建築応援団 OB）から、「土木らしいデザインだなあ」と微笑みなら、コメントをいただいたことを思い出します（当時の土木に、大変理解のある先生でした）。「熊大土木」「剛毅朴訥」「蘇遙会」という語句と大学、高専、蘇遙会のマークを単純に並べ、白地に黒文字という、いわゆる「熊大土木カラー」の素朴で単純なデザインでした。それが、いい意味で「土木らしい」と言ってくださったのかな？と勝手に解釈しました。

昭和 62 年秋に作製したこのテレカは、未使用のまま約 40 年間、熊大を離れて、私の手元で保管していました（当時 1 枚だけ購入）が、昨年、『蘇遙会』に贈呈（いや、返還？里帰り？）させていただきました。

私は昨年 9 月で還暦を迎え、改めてこれまでの人生を振り返ると、「熊大土木」「蘇遙会」で過ごした 4 年間で私の中で最大級の思い出です。

最後になりますが、教室の先生や、学生、卒業生の方々の、今後の益々のご活躍とご健勝を祈念いたします。（フルー、フルー 土木!!）



50 代にして東京・初勤務

土木環境工学科 平成 6 年卒 児玉 祐一 氏

九州内の道路事情をより良くしたいという思いから、H6.4 月に建設省九州地方建設局（現：国土交通省九州地方整備局）に入省し、30 年間、九州内の直轄国道等の整備・管理に携わりました。印象深いのは、地元・大分県佐伯市の東九州自動車道（佐伯 IC～蒲江 IC）や国道 3 号博多バイパス（福岡市）にて、建設監督官として開通直前の現場監督・各種調整を担当し、開通の瞬間に立ち会えたことです。双方とも着任時には既に開通目標年度が公表済みでしたので、多数の懸案が残る中での重圧は半端なかったですが、貴重な経験ができた

と思います。また、九州に多く存する石橋について、山尾会長にご指導いただき、「道路橋石橋の定期点検に関する参考資料」の作成に関わったことも貴重な経験でした。

その後、昨年 4 月より、入省後初めての九州外勤務となる東京勤務（本省道路局出向）になり、全国の道路技術者が目にする道路土工構造物や道路トンネルの技術基準および定期点検要領の改定等を担当しています。専門的かつ重要な全国基準の任務であり、今回の東京勤務は、自身の公務員生活においても大きなチャレンジの一つであると思います。

さて、仕事はさておき、東京での休日は最高に楽しいですね。九州からの出向仲間と共に、スポーツ観戦（プロ野球、J 1、B 1、リーグワン、陸上、春高バレー等）をはじめ、都内観光、富士山、日光、鎌倉、江ノ島、J A X A、牛久大仏、笑点公開収録、野外フェス、東京グルメ、昼呑み（車の運転不要です）など多々満喫しています。また、東京に来て、「日平均歩数が激増」、「冬の空が青く澄みきって連日快晴」には驚きました。



最後に、近年、人手不足という課題に直面する中、公務員も同様で、地元自治体以上に国土交通省の採用希望者数も厳しい状況です。在学生の皆さん、地方で大規模な事業を経験でき、数年間の東京チャレンジも可能な国土交通省と一緒に働いてみませんか？

熊大での研究が 今の私の研究職務に 繋がっている

環境土木工学科 平成 16 年卒
野間 康隆 氏



熊本大学を卒業して20年以上過ぎました。大学卒業後、都内の大学院に進学し、その後、建設会社に就職しました。建設会社では、入社以来、技術研究所に所属しており、現在に至ります。学生時代の研究は岩盤に関するものでしたが、現在はコンクリート構造に関する部署にあります。

大学には、高専からの編入学で入学しました。熊本県立劇場であった入学式で、式から帰る際、目標の就職先を書いたスケッチブックと一緒に写真撮影があり、この写真が何かの雑誌に掲載されていたのを覚えています。その目標の就職先が建設会社だったので、当時の夢がなかったのかもしれませんが、4年次の卒論のテーマで、ある構造解析が必要となり、先生にいろいろお伺いしたのを覚えています。所属研究室ではこの手法のソフトウェアが整備されておらず、卒論の研究では検討を行えませんでした。現在はこのような構造解析の業務をメイン業務の一つとして行っています。研究室時代にデータ分析や構造解析の研究を行わせて頂きましたが、それが今の私の研究職の日々の業務に繋がっており、大学時の先生方の教えが生きているなど感じています。熊本大学在学中には、勉学等に励み、先生方を始め、多くの方々にお世話になりました。

先日熊本大学時代が懐かしくなり、GWの旅行で熊本を訪れました。通潤橋、地震から復旧した熊本城を見に行きました。また、タクシーで、熊大前、水害後に整備された遊歩道前、大学の時住んでいた寮等を巡りました。大学前は、ラーメン店など増え、状況も変わっており、子飼橋もアーチがなくなっていたのに驚きました。熊本を訪れたことで、大学の時勉学を頑張っていた自分を思い出し、頑張ろうという活力が湧いて、毎日業務に励んでいます。

将来のことをあまり考えず、がむしゃらに頑張っていた大学時代ですが、現在も、あまり大きな目標はなく、毎日を一生懸命に日々過ごしています。学生時代頑張っていたことなど思い出深い熊本を、再び訪ねられることを楽しみに過ごしていきたいと思っています。

九州を「元気」にする。

環境システム工学科 平成16年卒/18年修了 溝田 真由 氏

2000年に入学、地盤環境研究室に所属し、鈴木先生、北園先生、林先生、技術職員の丸山さんのもと、阿蘇に土取りに行き、数多くの供

試体を作成し、ひたすら一軸圧縮試験を行っていた日々が懐かしく思い出されます。実験の日々を過ごしながらも、研究室の先輩・後輩たちとよく遊び、また、大学補助で海外に行けるからと先輩に誘われ、英会話もできないのに海外での論文発表にチャレンジするなど、充実した学生時代を過ごしました。

大学院2年に進学すると同時に、国土交通省九州地方整備局に入省し、佐伯河川国道事務所に配属。週末になると、当時、担当していた中九州横断道路を横目に、新車を走らせ、国道57号で熊大へ向かい、後輩たちの力を借りながら実験を行い、先生方のご指導のおかげで、なんとか修士論文を形にすることができました。

その後、育児休業を経て、道路関係の部署をいくつか経験した後、大分県へ出向した際には、熊本地震、九州北部豪雨が発生。九地整に戻ってからは、係長として出張所、事務所、本局で勤務し、委員会では熊大の先生方にもお世話になりました。

そして、この4月からは、初めて道路の部署を離れて、技術系のリクルート担当をしております。

これまでを振り返ると、どの場面においても、大学の先生方、先輩・後輩に支えられています。学生の皆様には、日頃から人とのつながりを大切に、いろいろなことにチャレンジしてもらいたいと思います。



オープンキャンパスにて
五高記念館で
学生が撮ってくれた写真

最近の就職状況は、売り手市場が続いており、公務員志望の学生が少なくなっています。学生の皆様には現場見学や業務説明会、インターンシップなどを通して、まず『九州地方整備局』を知り、そして、職場の雰囲気を感じてもらい、大規模な事業の一連に関わることができる技術系国家公務員の魅力を伝えていきたいと思っています。

九州地方整備局のミッションは「九州を元気にすること」。たくさんの先輩方が活躍されている九州地方整備局でぜひ一緒に働きませんか。

寄稿は随時募集しています HPの[お問い合わせ](#)よりご連絡ください

支部だより

支 部	担当者氏名(卒年 G:学部/ M:修士または博士前期/ D:博士後期) メールアドレス	支部報告	
東 京	坂西 由弘 (G2006 年/M2008 年) sakanisy@kajima.com	東京支部では、山尾先生を来賓に迎え、令和 6 年 10 月 19 日に対面での支部総会を開催しました。また、翌 11 月に、熊大で蘇遙会の学生と協力して出前講義を開催し、多くの学生と卒業生との交流を深めました。令和 7 年度は、10 月 4 日(土)に支部総会を開催する予定です。新たな価値観も取り入れつつ、一步一步、卒業生の交流活性化を目指していきます。	
大 阪	野中 久翁 (G1991 年) byg02136@nifty.com	大阪支部は後藤支部長以下 4 名の幹事です。昨年は土木部会の総会を 11 月 30 日に開催し、8 名参加いただきました。今年は 8 月に幹事会を開催し、土木部会の総会開催について決める予定です (7/28 現在)。	
山 口	原田 光 (G1992 年) h3a1r4a1d5a9k2o6u@gmail.com	山口支部では最近、土木部会としての活動は行っていないですが、工業会としては毎年 11 月頃に支部総会を開催しています。昨年は参加者 22 名中、土木系会員も 5 名参加し、懇親会では巻頭言の披露や学生時代の話などで盛り上がりました。今年も 11 月に総会を開催予定であり、7 月には地区支部長会議を行いました。	
福 岡	森 大輔 (G1995 年) mori-d0460@pref.fukuoka.lg.jp	昨年度は、大学から先生方や学生の皆様、支部からも多くのご出席を頂き、総勢 60 名以上の盛大な総会を開催することができました。今年度の総会(11.6)につきましても開催に向け準備を進めておりますので、多くの皆様の参加を心からお待ちしております。	
大 分	石和 徹也 (G1991 年) ishiwa-tetsuya@pref.oita.lg.jp	土木系会員が主体に運営している工業会大分支部では、今年度(10 月頃)理事会を予定しています。この会は、役員だけでなく、今後の幅広い交流を目指し、転勤等で大分県内に来られた方などにも参加していただければと考えていますの、ぜひ出席の希望がありましたら、ご連絡お待ちしております。	
長 崎	三道 チエ (G1999 年) chie.sandou@pref.nagasaki.lg.jp	昨年 11 月の熊本大学工業会長崎支部総会と今年 3 月の県庁送別会で、先輩方の元気に触れ勇気をもらいました。また恒例の巻頭言を担う後継者を募集中です。「我こそは」という方、ご一報ください。これらの会は、先輩・後輩、職場や世代をこえて、気軽に楽しくつながれる場です。今年度もぜひ参加してください。	
愛 媛	三好 雄也 (G2017 年) miyoshi-yuuya@pref.ehime.lg.jp	北九州	大久保 賢介 (G2004 年) kensuke_ookubo01@city.kitakyushu.lg.jp
佐 賀	岩橋 良憲 (G1999 年) iwahashi-yoshinori@pref.saga.lg.jp	熊 本	大原 良隆 (G2012 年) ohara.yoshitaka@city.kumamoto.lg.jp
宮 崎	河野 翔平 (G2016 年) kawano-shohei1@pref.miyazaki.lg.jp	鹿 児 島	坂元 圭一 (G2010 年/M2012 年) keiichi-sakamoto@pref.kagoshima.lg.jp

各支部へのお問い合わせは担当者へメールにてご連絡ください

熊本支部報告「新社会人等歓迎会」 支部連絡担当 大原 良隆(H24 卒)

令和 7 年 5 月 31 日、熊本大学工業会熊本支部土木部会では、熊本県内に就職・転入された卒業生の皆様に歓迎する「新社会人等歓迎会」を開催いたしました。本会は、新型コロナウイルス感染症の影響により一時活動を自粛しておりましたが、このたび再開の運びとなり、熊本大学の先生方をはじめ、官公庁や民間企業にご所属の皆様など、総勢 51 名にご参加いただきました。幅広い世代・立場の同窓生が一堂に会し、世代を超えた交流の場として大変有意義な時間となりました。当日は、教室からの近況報告に加え、参加者同士による情報交換も活発に行われ、和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができました。

参加者からは、「久しぶりに同窓生と再会できて嬉しかった」「若手との交流が刺激になった」といった声も寄せられました。今後もこのような機会を通じて、大学との連携や卒業生ネットワークの活性化を図ってまいります。

(HP には他の写真も掲載中)



◇物故者◇

2024 年 7 月～2025 年 6 月にご連絡があった方を掲載しています。
卒年は蘇遙会正会員となった卒業・修了年、()内は没年月日。

■熊本高等工業学校

S17 年卒 矢野 滋 様

S19 年卒 楠部 和文 様(2024.5.15)

■熊本工業専門学校

S25 年卒 岩木 清 様(2024.1.11)

S25 年卒 森原 稠 様

S25 年卒 波崎野 靖治 様(2024.4.16)

■熊本大学工学部

S29 年卒 加藤 泰典 様(2022.2.10)

S33 年卒 礪本 誠 様(2024.4.10)

S34 年卒 森山 良三 様(2024.7.21)

S35 年卒 横山 勝一 様(2019.12.17)

S36 年卒 本多 源一 様(2023.1.23)

S38 年卒 秋葉 敏明 様(2024.3.27)

S39 年卒 曾我部 泰良 様(2024.1.15)

S40 年卒 池上 雪男 様(2023.9.5)

S40 年卒 吉崎 斌 様(2024.4.12)

S42 年卒 立川 善章 様(2024.7.27)

S43 年卒 前田 康雄 様(2022)

S47 年卒 中村 英二 様(2024.11.18)

S47 年卒 渡辺 光幸 様(2017.4.13)

S48 年卒 藤村 直樹 様(2024.9.5)

S60 年卒 渦元 誠朗 様(2024.9.19)

H 3 年卒 衛藤 謙介 様(2025.3.27)

皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます

◆都道府県別蘇遙会会員数
(登録自宅住所で分類)

2025 年 7 月 28 日現在(物故者除く)

北海道	7	京都府	26
青森県	2	大阪府	82
岩手県	0	兵庫県	66
宮城県	11	奈良県	11
秋田県	0	和歌山県	5
山形県	0	鳥取県	3
福島県	2	島根県	8
茨城県	15	岡山県	11
栃木県	3	広島県	58
群馬県	8	山口県	61
埼玉県	50	徳島県	3
千葉県	84	香川県	4
東京都	147	愛媛県	21
神奈川県	95	高知県	4
新潟県	4	福岡県	930
富山県	0	佐賀県	130
石川県	3	長崎県	188
福井県	2	熊本県	880
山梨県	3	大分県	242
長野県	1	宮崎県	156
岐阜県	5	鹿児島県	146
静岡県	5	沖縄県	11
愛知県	36	国外	6
三重県	6	不明・その他	853
滋賀県	8	合計	4,402

教職員紹介

教員氏名（研究室名）	職 名	近 況
尾上 幸造 （環境建設材料研究室）	教 授	熊大土木に着任して早いもので 10 年目となります。これまで多数の優秀な学生に恵まれました。引き続き活気があって生産性の高い研究室を目指して行きたいと思います。
柿本 竜治 （地域公共政策研究室）	教 授	今年のホークスは、主力にけが人続出で前半は苦戦続きでしたが、出場機会が増えた若手の急成長で何とか首位争い。このまま世代交代できるか？ 球場へ行く楽しみが増えました。
川越 保徳 （水質環境学研究室）	教 授	ちよつとしたきっかけで、昨年末から月に 1 回のライブで弾き語りをしている。この間、久しぶりに演ったさだまさし（グレープ）の「フレディもしくは三教街」が身近になっている今を憂えるばかり。
佐藤 晃 （深部地下環境工学研究室）	教 授	学科長業務を仰せつかって本年度で 2 年目です。蘇遙会運営委員会などを通して頂いた皆様のご意見を土木教室運営に活かしていきたいと思います。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。
重石 光弘 （複合材料研究室）	教 授	最近基準や規格における統計処理や品質管理の解説資料を作成したり、実務的な技術改善の提案をしたりしています。
竹内 裕希子 （地域防災研究室）	教 授	2021 年度から取り組んでいたタイの教員向け防災教育プログラムの開発プロジェクトが終わりました。コロナ禍でのスタートだったため行き来が大変でしたが、学びも多く、有効的な関係も構築されとても有意義でした。
張 浩 （河川環境研究室）	教 授	メンバーが増えにぎやかな研究室となりました。研究体制も整いつつございますので、OB/OG の方々との連携を一層深め学術の向上に寄与するとともに社会に貢献できる人材を輩出することに尽力いたします。
星野 裕司 （景観デザイン研究室）	教 授	多忙と暑さ寒さで、趣味のバイクになかなか乗れず、ちよつとストレスが溜まっています。ただ、久しぶりに、現役の学生たちと麻雀をしました。楽しかったです。またやりたいなあ。
松村 政秀 （構造システム研究室）	教 授	10 月 18 日（土）に開催します構力研同窓会にて卒修了の皆さまとお会いできますことを楽しみにしております。
円山 琢也 （交通政策分析研究室）	教 授	久しぶりに、少し長めの 1 週間にわたる国際会議に参加する機会がありました。好きな研究に集中できる日々は本当に幸せで、このような環境に意図的に身を置くことの大切さを、改めて実感しました。
皆川 朋子 （河川/流域デザイン研究室）	教 授	球磨川豪雨から 5 年経過しました。流域治水の取り組みも少しずつ普及しつつあります。今年は埋蔵文化財関連でハードルが高い熊大敷地内への「雨庭」設置にチャレンジしていきたいとおもいます！
棕木 俊文 （環境地盤工学研究室）	教 授	2025 年 9 月でカナダからの帰国 20 年。ということは、2026 年は、研究室創立 20 周年です！ なんかやろうかな？ 最近、ブルーカーボンに関する研究を始めました。宇宙にも行きたい。
石田 桂 （水文研究室）	准教授	今年は台湾、アメリカ、シンガポール、南アフリカと海外出張の機会が多いです。熊本大学への海外からの来客も増えています。今後、国際共同研究の機会が増えて行きそうです。
伊藤 紘晃 （水質環境学研究室）	准教授	2025 年 4 月 1 日付けで准教授に昇任致しました。熊本や世界の水質に貢献できる研究と熊大生の能力を上手に伸ばす教育を行って参りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。
金 洙列 （海洋海岸工学研究室）	准教授	今年度のインターンシップ講演会・受入にご協力いただき、誠にありがとうございました。今後とも後輩学生への温かいご指導をよろしくお願いいたします。
オノ木 敦士 （地下空間工学研究室）	准教授	最近、様々な場所で熊大土木の OB の方とお会いする機会が増えたように思います。現場があつての工学ですので、現場に関する課題やアイデアについてぜひ議論させてください。
高野 大樹 （地下空間工学研究室）	准教授	研究室 2 年目、熊本での土木学会全国大会や国際ワークショップの準備に追われる日々です。秋にはインド・フランスへ出張予定。変化の多い年になりそうです。
田中 尚人 （地域風土計画研究室）	准教授	熊大 20 年目になる今年は、熊本地震から 9 年目を迎え、来年を見据えて研究室のこれまでを、学生や熊本の皆様とともに丁寧に振り返る区切りの年としたいと思います。一期一会を大切に。

吉城 秀治 (地域・交通デザイン研究室)	准教授	今年は2年生の担任です。実は熊大卒ですよ、とお声がけいただけることも増えてきました。学生の就職関連でこの先何かとお世話になろうかと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。
稲垣 直人 (河川環境研究室)	助教	熊本での初年度は多くの方に支えていただきました。私生活では、この一年間遠距離であった婚約者と3月に入籍し、4月から夫婦揃って熊本での充実した日々を過ごしています。
渡部 慎也 (構造システム研究室)	助教	赴任から3年目を迎えいつまでも新参者ではいられないと実感しています。今年は土木学会全国大会の開催もあり何かと慌ただしいですが昨年より研究に向き合う時間を確保できるよう努めたいと思います。

★伊藤准教授は令和7年4月1日付で、准教授に昇任されました。

技術部・事務補佐員	友田 祐一	技術専門員	山下 寿子	尾上研究室秘書
	吉永 徹	技術専門員	園山 恵	佐藤、オノ木研究室秘書
	外村 隆臣	技術専門職員	小川 香名子	星野、円山研究室秘書
	上田 誠	技術専門職員	下田 万里	椋木、高野研究室秘書
	橋本 淳弘	技術職員	中島 幸香	皆川研究室研究員
	松木 翔二郎	技術職員	西 智美	金研究室秘書
	友田 桂子	土木建築工学科土木教室事務	藤内 英子	蘇遙会事務局

* 土木教室事務の友田桂子さんは令和7年9月で退職されます。

2021年の熊大キャラクターイラストコンテストで最優秀賞を受賞された友田桂子さんのイラスト⇒



退職挨拶

ご挨拶

安藤 宏恵



い状態での赴任でしたが、地域の皆さまの温かさや、土木教室の先生方の親切で協力的なご指導に支えられ、安心して研究・教

このたび、2025年3月をもって熊本大学を退職し、4月より名古屋大学未来材料・システム研究所に着任することとなりました。在職中は、多くの方々に支えていただき、心より感謝申し上げます。熊本大学には、私にとって大学教員としてのキャリアをスタートする場としてご縁をいただきました。それまで九州地方に住んだこともなく、右も左も分からない

育に取り組むことができました。私の研究分野は、災害や混乱に強い交通システムの構築及びネットワーク分析です。熊本はこれまで多くの自然災害を経験しており、こうした地域特性を身近に学びながら研究できたことは、非常に意義深く、私自身の視野を広げる貴重な機会となりました。また、講義や学生との関わりを通して、教員としての多くの学びを得ることができました。着任当初は新型コロナウイルスの影響によりオンライン講義が中心で、受講者の顔が見えない環境に戸惑うことも多々ありましたが、やがて対面で学生の皆さんと空間を共有しながら授業できるようになり、その中で得られる反応や交流の楽しさを実感するようになりました。働きやすい環境を整え、ご指導くださった柿本竜治先生をはじめ、土木教室の先生方には心より感謝申し上げます。熊本という地で得た経験と学びを、今後の研究・教育活動にしっかりと活かし、新天地でもより一層努めてまいりたいと存じます。これまでのご厚情に心から感謝申し上げますとともに、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

研究室配属人数および学部 1～3 年生の学生数 (2025 年 4 月現在、休学・10 月入学生・社会人ドクター等を含む)

研究室 (担当教員)	学部 4 年	修士 1 年	修士 2 年	博士 1 年	博士 2 年	博士 3 年	研究員・他	合 計
環境建設材料研究室 (尾上)	4	5	3					12
水質環境学研究室 (川越)	3	2	3	1				9
深部地下環境工学研究室 (佐藤)	3	1	2					6
複合材料研究室 (重石)	3	5						8
地域防災研究室 (竹内)	4	1	3			1		9
河川環境研究室 (張、稲垣)	5	6	2				1	14
交通対策分析研究室 (円山)	4	5	4		1			14
河川/流域デザイン研究室 (皆川)	3	3	6	1		1	4	18
環境地盤工学研究室 (椋木)	3	2	1		1		1	8
水圏物質動態研究室 (伊藤)	3							3
地下空間工学研究室 (オノ木)	3	2	2	1	1		1	10
地下空間工学研究室 (高野)	3						1	4
地域風土計画研究室 (田中)	3	5	5	1		3		17
地域公共政策研究室 (柿本)	4	1	2		2		1	10
景観デザイン研究室 (星野)	3	7	6	1		1		18
構造システム研究室 (松村、渡部)	5	2	5	1	1	1	2	17
水文研究室 (石田)	4	2	1					7
海洋海岸工学研究室 (金)	3		3					6
地域・交通デザイン研究室 (古城)	3	2	2					7
合 計	66	51	50	6	6	7	11	197

学部 1～3 年生の 学生数	1 年	土木建築学科(コース選択前)	119	1 年生は土木建築学科入学生の総数です。 2 年生進級時に「土工学」、「地域デザイン」、「建築学」の 3 つの プログラムにコースが分かります。 蘇遙会学生会員対象は「土木系」の学生であり、土木工学プログラ ムコースおよび地域デザインプログラムコースの学生となります。
	2 年	土木建築学科土木工学プログラム	36	
	2 年	土木建築学科地域デザインプログラム	24	
	3 年	土木建築学科土木工学プログラム	43	
	3 年	土木建築学科地域デザインプログラム	31	
		卒研未着手	25	

◆令和 7 年 3 月 学部卒業生進路【順不同】

熊本県、大分県、島根県、熊本市、佐世保市、鹿児島市、(株)奥村組、(株)熊谷組、五洋建設(株)、坂下組(株)、清水建設(株)、サンヨーホームズ(株)、(株)TAKASUGI、(株)丹青社、日本空港ビルデング(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)建設技術研究所、(株)山陽設計、(株)福山コンサルタント、熊本国際空港(株)、西日本高速道路(株)、独立行政法人 都市再生機構、熊本大学大学院自然科学教育部博士前期課程、大樹生命(株)、(株)アルテナ

◆令和 7 年 3 月 大学院(前期・後期)卒業生進路【順不同】

熊本県、長崎県、鹿児島建設(株)、大成建設(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル、(株)日本海コンサルタント、(株)建設技術研究所、NEXCO 西日本コンサルタンツ(株)、サンコーコンサルタント(株)、ニュージェック(株)、西日本技術開発(株)、日本工営(株)、日本工営都市空間(株)、八千代エンジニアリング(株)、復建調査設計(株)、(株)IHI インフラシステム、高田機工(株)、オリエンタル白石(株)、極東興和(株)、クボタ環境エンジニアリング(株)、その他

2025 年度学生部コンセプト

学部 3 年 学生部部长 平緒 優貴

「継・経・繋」

今年度の学生部のコンセプトは、「継・経・繋」です。これは、「継承」「経験」「繋ぐ」という 3 つのキーワードをもとに、学生部として大切にすべき姿勢や方向性を表しています。

まず「継」とは、私たちの学生部がこれまでの長い歴史の中で先輩方から受け継いできた伝統や想い、活動の精神をしっかりと引き継ぐという意味です。学生部は代が変わるたびに形を少しずつ変えてきましたが、その根底にある「学生主体で動く」という意志や、学生同士の信頼関係、地域や学校、先輩とのつながりを大切にしている姿勢などは、今も変わらず受け継がれています。今年度もその流れを途絶えさせることなく、真摯に受け止め、大切に守っていきたいと考えています。

次に「経」は、私たち自身がその伝統や活動を「経験」し、実際に体感することで、学生部の価値や意味を理解していくことを表しています。言葉や資料で伝えられたものだけではなく、自分たちの行動や挑戦を通じて学び、悩み、成功や失敗の両方を経験しながら、学生部としてのあり方を身につけていくことが大切だと思っています。その経験こそが、自信や誇りにつながり、次の世代に伝えていくための土台となります。

そして「繋」は、私たちが受け取ったものを次の世代へと「繋げていく」という想いを込めています。私たちだけで完結するのではなく、後輩たちが活動しやすいように道を整えたり、経験や気づきを丁寧に言葉にして伝えたりすることが、組織の持続や発展には欠かせません。先輩方からいただいたものを、今度は私たちが責任を持って後輩へと受け渡していけるよう、日々の活動に励んでいきたいと考えています。

この「継・経・繋」のコンセプトのもと、今年度の学生部は、一人ひとりがそれぞれの役割を意識しながら、団体全体としてもより良い方向へ進んでいけるよう、力を合わせて活動していきます。

活動報告

学部 3 年 学生部書記 落合 駿成

花 見

2025 年 4 月 20 日に、熊本大学南キャンパスのすぐそばにある河川敷で「花見」を行ないました。この活動は新体制の学生部幹部で行なう初めての企画でした。学部 3,4 年生の方に参加していただき、大変賑やかなイベントになりました。河川敷にビニールシートを敷いて座り、ピザやおにぎりや唐揚げを囲んで、学年を超えた会話が弾んでいました。4 月の下旬であったため、あまり花は咲いていませんでしたが、先輩方とたくさん話すことができ楽しい交流をすることができました。特に 3 年生は上級生にインターンシップに関する質問をしたり、研究室の話しをするなど、進路に関わる内容の話をよくしていました。初めての企画で準備や河川敷の許可の取り方など分からないことが多かったですが上級生の先輩に教えていただき、上級生の先輩方の存在の偉大さ、心強さを感じました。今回の反省点をいかして次回以降のイベントに臨みたいです。

新歓イベント「BBQ」

2025 年 5 月 25 日に、新入生歓迎 BBQ を白川河川敷で行ないました。今回の活動は本年度で参加者が最も多く最終的に 35 人集まってもらい、学部 1 年生から院生の方までたくさんの学生に参加していただきました。この企画は、新 1 年生が参加する初めてのイベントになりました。参加してくれた 1 年生の多くは初め、個人や少人数ごとに訪れ、表情も緊張気味でしたが、時間が経過するにつれ、1 年生内のコミュニケーションが活発になり、笑顔がよく見えるようになりました。人



と人とがつながることのできる場として蘇遙会の活動が良い機会となっていました。また、同学年内に限らず幅広い学年のグループもでき、上級生下級生関係なく楽しく話している様子が多く見られました。蘇遙会の活動が学年を超えたつながりを深めるきっかけになればいいと思います。

また、BBQ を行なうにあたって多くの人に手伝ってもらった場面がありました。ほかにも事前の準備などわからないことに関しては昨年度の役員の皆さんが教えてくださり BBQ を大成功で締めくくることができました。運ぶものも多く、片付けにも時間がかかり、苦戦することも多々ありましたが、新役員、旧役員協力して乗り切ることができ、より一層親睦が深まりました。



蘇遙会学生部研修旅行について

今年度は、9月14、15日に研修旅行を実施する予定です。一年の活動の中でも規模の大きな活動の一つであり、「蘇遙会」を知ることができる活動になると思うので、在学生の皆さん、是非ご参加ください。

また、今までの研修旅行の様子は蘇遙会ホームページに載せております。下記 URL からご覧ください。

<https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/?cat=9>

就活・院進学体験記

※この記事内容は2025年7月時点のものです。

学部4年 高木 駿介

私は最初、建設コンサルタントと公務員で迷っていて、学部を卒業したらどちらかに就職しようと思っていました。3年生のときに建設コンサルタントと公務員の両方のインターンシップに参加して、私には建設コンサルタントの方が向いていると思い、建設コンサルタントに就職しようと考えていました。しかし、私が第一志望にしていた会社に内定をもらえず、一応受けていた熊本県庁に内定をもらえました。熊本県庁では、大学院の卒業後でも試験が免除される制度があるので、受けておいて正解だったなと思っています。私が後悔していることは、もっと早い段階から就活を始めるべきだったということです。インターンシップに参加するにしても、もっと自分なりにいろんな業種や会社を調べて比較して、自分が入りたい、向いていると思った会社のインターンシップに参加すればよかったなと思いました。私は建設コンサルタントと公務員でまだ迷っていたので、とりあえず参加しておこうという気持ちで参加したのが心残りです。エントリーシートも締め切り日のギリギリまで書いていなかったのも、もっと早めには書き始めていたら、より良いものができたと思います。私は大学院への進学を決めたので、大学院でもっと専門的な知識をつけ、多くの会社を比較して就職しようと考えています。そして大学院の間に、もう一回第一志望にしていた会社にリベンジするか、他の業種に就職するかを決めたいと思います。

学部4年 高橋 仁晟

私は現在、大学院進学を希望しているのですが、大学に入学したときは大学院に進学することは考えておらず大学4年で卒業し、そのまま就職しようと考えていました。そんな私が大学院に進学しようとしたきっかけはいくつかありますが、そのなかでも最も大きな要因として、大学3年生で参加したインターンシップがあります。私はコンサルのインターンシップに参加したのですが、そこに参加していたほかの大学の修士1年の方と同じ空間で作業したり、企業の方への質問の場を一緒に設けていただいたりする中で、学年としては2つしか変わらない修士1年の方の土木分野に対する理解の深さやより鮮明に将来の自分自

身の姿を想像できている様子を見て2年の間にここまで人としても専門分野に関しても成長することができる大学院に強い興味がわきました。その出来事があったから、大学院への進学を進められる声も後押しとなり、大学院進学が自分の中で目標になりました。

自分の中で大学院進学が確実なものとなっていく中で就職活動はあまり行ってこなかったのですが、自分の中でいい刺激を受けることができたということもあり、大学院への進学を希望している人であっても、学部生のうちからインターンシップなどに積極的に参加して視野を広げておくことは自分自身にとって大きなプラスになると思います。

学部4年 須藤 翼

私は学部入学時から大学院への進学を決めていました。学部卒の学生より2年間多く勉強、研究することで、多くの知識が身についた状態で就職できると考えたからです。就職して得られることも多いと思いますが、大学院で得た知識を使って就職するとできることが増えた状態で働くことができると、先輩や企業の方からたくさん聞きました。3年生の時には、ゼネコンとコンサルのインターンシップに参加し、自分に合った働き方を探しにいきました。私は、現時点ではコンサルに就職しようと考えていますが、これからの研究により、新しい道に進むことも考えられます。大学院に進学することによって、さらに広い選択肢を持つことができるのも魅力の一つであると思います。とにかく、先輩や社会人の方からたくさん話を聞いて、自分に合った選択をしていきたいです。

学部4年 前田 明日香

私は初めから大学院には行かずに就職をしようと考えていました。就活を始めたのは3年生の6月からで、まずは土木の主な就職先であるゼネコンとコンサルのインターンに行ってみようと思い、夏季インターンに参加しました。そこで実際に、仕事内容を体験してみて、自分の性格や将来してみたい事に近いのはゼネコンだと思い、最終的な就職先はゼネコンに決めました。

また、私は出前講義でOB・OGの方々との連絡を取る役を担っていたため、実際に働いている方々と話す機会が多く、自分が考えているゼネコンの仕事内容と実際に行われている仕事内容にズレが生じてないかの照らし合わせも行うことが出来ました。ただ、大学生活を過ごし

ているだけでは関わることが出来なかった方々と深い話ができ、自分の将来に繋がったことは非常に役に立ったと思います。

今現在、就活で迷っている方がいたら、蘇遙会で行われている出前講義やインターンシップなどに参加して、たくさんの方々の話を聞き、参考にし、後悔のないように就活を進めていってほしいと思います。

出前講義レポート

2024 年度 蘇遙会学生部書記 山村 真子

蘇遙会主催の出前講義が、2024年11月29日に熊本大学土木建築学科の学生約50名を対象に開催されました。講師としては、大手ゼネコン、コンサルティング企業、国土交通省などで活躍中の熊本大学OBの方々17名をお招きし、土木建築分野における仕事の実情やキャリア形成について、具体的かつ実践的なお話を伺うことができました。今回の講義には、学部2・3年生および大学院1年生が参加し、進路選択や業界研究を深める貴重な機会となりました。

続くプレゼンテーションでは、建設プロジェクトにおける具体的な役割や、土木分野が社会に果たす意義、技術者としてのやりがいなどについて、実例を交えながら分かりやすく解説されました。また、後半に行われた匿名質問会では、「平均年収」や「転勤事情」、「結婚相手との出会い」といった、普段はなかなか聞きづらいテーマにも踏み込んだ質問が多く寄せられ、講師の皆様からも率直でリアルな回答がありました。学生たちは、業界の現実や働く上でのリアルな側面に触れることで、将来のキャリアをより具体的に思い描くきっかけを得ることができました。

さらに、講義終了後には懇親会が開かれ、学生たちは講義では聞ききれなかったことを直接質問するなど、現場で働く先輩方の生の声をじっくり聞くことができました。その中で、進路に対するイメージをより具体的に描くきっかけを得た学生も多く見受けられました。この出前講義は、学生が土木建築業界への理解を深める貴重な機会であると同時に、蘇遙会という組織の結束力をさらに高める、意義ある一日となりました。

